

巻 頭 言

フジコー技報第30号によせて

富士の高嶺へ共に歩む

株式会社西日本シティ銀行
代表取締役頭取

村上 英之

Hideyuki Murakami



はじめに

創業70周年という記念すべき年に、フジコー技報「創る」巻頭言に寄稿する機会を頂戴し、感謝申し上げます。また、日頃より弊行北九州営業部が大変お世話になり、この場をお借りして御礼申し上げます。

貴社は1952年（昭和27年）に故・山本秀祐氏が富士工業所を創業されて以来、鉄鋼業界において他の追随を許さない高い技術力を発揮し、社会に貢献されてきました。社名の由来通り、富士の高みを目指して歩み続けた歴史であり、私ども西日本シティ銀行も、メインバンクとして長年にわたり苦楽を共にし、多少なりともお役に立ってきたのではないかと自負しております。今回、この歴史を振り返りつつ、これから先のお話をしたいと存じます。

1 合目から共に歩む

私どもは、2004年10月に西日本銀行と福岡シティ銀行が合併して誕生した地方銀行です。旧2行は、かつては「相互銀行」であり、さらに遡ると「無尽」と呼ばれた「中小企業専門金融機関」でした。こうした経緯から、これまで数多くの中小企業と共に成長してきました。西日本シティ銀行はその歴史を現在に至るまで脈々と受け継いでおり、「中小企業育成」は当行のDNAであると考えております。

貴社と当行の関係は昭和30年代にさかのぼり

ます。西日本相互銀行に勤めていた森高久夫さん（後にフジコー常務）が、創業間もない貴社の経理部長に就任したことがはじまりです。わが国が戦後復興から高度成長期にさしかかり、1960年（昭和35年）に発足した池田勇人内閣が「所得倍增計画」を本格化させた頃です。貴社も順調に業容を拡大していましたが、経理処理がそれに追いついていなかったと聞いています。

森高さんは入社早々、社長の右腕として経理全般を任されました。まずは経理・決算書類の整理に着手し、銀行員時代に身に付けた能力を存分に発揮されたそうです。その後、西日本相互銀行小倉支店（現在の西日本シティ銀行室町支店）の支店長と交渉し、貸出枠三千万円でお取引がスタートしました。現在の貨幣価値に換算すれば、かなり大きな金額になるのではないかと思います。当時はまだベンチャー企業であった貴社の潜在的な成長力を見極めた、当行の先輩方の「目利き力」を、誠に誇らしく思います。こうして当行は、登山でいえば一合目から貴社と共に歩むことになりました。

苦しい時もメインバンクとして

貴社70年の歴史の中では、厳しい時期も多々あったことでしょう。特にオイルショックの時代や、平成初めのバブル崩壊後には、貴社の主要取引先も生産設備の減少、転換や企業再編に追い込まれました。貴社にとっても冬の時代だったと拝察します。

そのような時に我々はメインバンクとして、資金面での支援だけでなく、財務上のアドバイスなど、業績立て直しに向けて共に取り組んでまいりました。時には厳しい事も申し上げたこともあったかと思いますが、貴社を支えたいという強い思いがあったからこそ、今日に至るまでの貴社との強い絆を築くことができたと思っております。これからも様々な試練があるものと思っておりますが、貴社の成長のお役に立てる良きパートナーであり続けたいと強く念じております。

「不可能を可能に」技術のフジコー

貴社は「不可能を可能に」を合言葉に、技術開発力の向上を追求してこられました。山本厚生会長が社長を務められた時代から、将来を見据えて売上高の3～4%を研究開発費に投資し、数多くの特許を保有されています。2012年にはメーカーの勲章である「ものづくり日本大賞特別賞」にも選ばれました。また2019年には研究開発の拠点として、北九州市若松区に技術開発センターを新築移転されましたが、同センター建設には当行も融資面でお手伝いを差し上げることができました。

貴社は現在、鉄鋼関連事業、エンジニアリング関連事業、環境関連事業を三本柱として成長を続けています。環境関連事業の主力である光触媒に進出された際には、当行新店舗のトイレに有害物質を除去する貴社の光触媒タイルを採用し、安全で快適な店舗作りに活用させていただきました。また、空気消臭除菌装置「ブルーデオ」は、機能面での高い評価に加え、有名俳優の向井理さんを起用した広告でも話題になりました。環境関連事業の商品は、新型コロナ禍によって注目を集めることになったと聞いています。これらは一例にすぎませんが、貴社の技術開発力は高い評価を得ており、業容拡大の原動力となっています。

貴社の成長を支える技術開発力の源泉は、社員の方々の皆さまであります。その一環として若手研究者に社

会人大学院制度を活用して博士号の取得を推奨されていますが、山本会長自ら九州大学大学院で指導を受け、2021年3月、博士号（工学）を取得されたと伺いました。年齢（よわい）80を超えての博士号取得には、ただただ感服するほかありません。

その山本会長には、当行お取引先で構成される後援会組織「NC北栄会」の会長職を2005年から8年にわたって務めていただきました。会長就任時は、当行が合併によって誕生したばかりの時期であっただけに、強いリーダーシップで新銀行を強力にバックアップしていただき、本当に心強く感じました。また在任期間中を通して、会の充実と会員数の増加にもご尽力いただき、NC北栄会の会員数は現在450社を超え、当行内で最も規模の大きな後援会になっております。当行と北九州の地元お取引先とのリレーション強化に多大なご貢献をいただき、改めて感謝申し上げます。

最後に

こうして改めて歴史を振り返ってみますと、貴社と当行の間には、お取引先とメインバンクという関係だけでなく、苦しい時に互いを支え合う固い結びつきを感じています。冒頭に触れた当行の「中小企業育成のDNA」は、貴社のようなお取引先との関係に恵まれたからこそ、培うことができたものです。

不確実性が高まる現代です。先の見えない環境だからこそ、貴社は萩尾寿昭社長が陣頭に立ち、ゆるぎない技術開発力をベースに更なる成長を目指されることでしょう。

富士の高嶺に登りきった後には、世界一のエベレストがあります。これからも西日本シティ銀行は貴社と共に山頂を目指して参ります。

最後に、貴社の益々の繁栄を祈念しまして、私のご挨拶といたします。ありがとうございました。

【履歴書】

むらかみ ひでゆき

村上 英之

生年月日 昭和 36年 3月 14日

【略 歴】

昭和	58年	3月	九州大学経済学部卒業
昭和	58年	4月	(株)西日本相互銀行（現西日本シティ銀行）入行
平成	19年	5月	博多駅東支店長
平成	20年	5月	人事部長兼人材開発室長
平成	22年	6月	執行役員人事部長兼人材開発室長
平成	24年	5月	執行役員総合企画部長
平成	24年	6月	常務執行役員総合企画部長
平成	26年	5月	常務執行役員総合企画部担当
平成	26年	6月	取締役常務執行役員
平成	28年	10月	(株)西日本フィナンシャルホールディングス取締役執行役員
平成	30年	6月	(株)西日本シティ銀行取締役専務執行役員
令和	3年	6月	(株)西日本フィナンシャルホールディングス取締役社長（代表取締役）（現職） (株)西日本シティ銀行取締役頭取（代表取締役）（現職）